

令和7年度

小学生名寄自然体験交流事業報告書



杉並区次世代育成基金活用事業

令和8年3月
杉並区教育委員会

目 次

01 小学生名寄自然体験交流を終えて

杉並区教育委員会 教育長 渋谷 正宏
名寄市教育委員会 教育長 岸 小夜子

02 小学生名寄自然体験交流事業の概要

04 写真でふりかえる交流事業

08 派遣児童の作文・作品

33 一步、踏み出したその先にあるもの

高井戸第四小学校 校長 本橋 忠旗

34 保護者の感想

令和7年度名寄市・杉並区交流事業

小学生名寄自然体験交流を終えて



杉並区教育委員会
教育長

渋谷 正宏



名寄市教育委員会
教育長

岸 小夜子

杉並区の交流自治体である北海道名寄市に小学5・6年生を派遣する「小学生自然体験交流事業」は、今回で14回目を迎えました。今回も派遣された子どもたちは、マイナス11℃の厳冬の北海道名寄市で、杉並とは大きく異なる自然・文化・気候、そして北国の暮らしに触れ、多くの学びを得ることができました。

子どもたちは、派遣前の事前学習会において自ら学びたいテーマを設定し、下調べを行ったうえで現地に向かいました。北国博物館での展示や解説では、地域の歴史や生活の知恵、アイヌの文化への理解が深まりました。名寄市の子どもたちとのスノーシュートレッキングや雪遊びでは、雪深い大自然の中で交流を深めるひとときが生まれました。初めての挑戦となったカーリングでは、試行錯誤を重ねながら技術を高め、最後にはミニゲームを楽しめるまでに上達しました。さらに、天文台きたすばるでの天体に関する学習や旭山動物園での観察も、子どもたちの視野を大きく広げる貴重な機会となりました。

成果発表会では、大きな舞台で堂々と発表する姿がとても印象的でした。緊張の中でも自分の言葉で体験を語る姿から、「やればできる」という確かな自信が感じられました。さらさらの雪の感触や刺すような寒さ、雪道で進みにくいスツケース、凍ったタオル、スノーシューで歩いた雪原など、五感を通した具体的な体験が学びへとつながっていく様子は、実に見事でした。違いに驚くだけでなく、「なぜだろう」「どうしてだろう」と考え、調べ、言葉にしていた姿勢は、本事業の大きな成果であり、子どもたちの成長そのものです。

また、発表の随所に見られた名寄市の方々への感謝や自然への敬意、仲間とのつながりは、交流事業の目的にかなうものであり、大変心を打たれました。今回の経験を今後の学習や生活にいかすとともに、杉並という自分たちの地域の良さを改めて見つめ直す契機としてほしいと願っています。

結びに、子どもたちを温かく迎えてくださった名寄市の皆さま、体調管理を含めて大きなお力添えをいただいた保護者の皆さま、そして次世代育成基金の趣旨にご賛同・ご支援をいただいた皆さまに、深く感謝申し上げます。

本年度も杉並区の皆さんが「小学生名寄自然体験交流」で名寄市へお越しください、名寄市の参加者と交流を深めていただくとともに、事業を無事終了できましたことを大変嬉しく思います。これもひとえにきめ細かな準備・運営など、ご支援・ご協力を賜りました杉並区の保護者、関係者の皆様のおかげであり、心より敬意を表し、感謝を申し上げます。

参加された杉並区の児童の皆さんには、北国博物館での展示室の見学、スノーシュートレッキングや雪中での宝探しによる名寄市の児童との交流、カーリング体験、なよろ市立天文台「きたすばる」の見学など、名寄市ならではの冬の自然や文化、スポーツに親しんでいただきました。

杉並区と名寄市の児童の皆さんは、対面式での班別の自己紹介ですぐに心を開き打ち解けたように見えました。その後の北国博物館横のミズナラの原生林の中では、スノーシューを履いて駆け回りながら、お互いに協力して宝探しを進め、和気あいあいと交流しており、見ているこちらも楽しい気持ちになりました。また、専用シューズを履いて氷上を動き回ったりストーンを投げたりするカーリングは、思っていたよりも実際にプレーしてみると難しかったのではないのでしょうか。寒さの中で事前に考えてきた実験をされたお話も伺いましたが、様々な名寄市の冬の体験を通して、新たな発見や学びのある充実した3日間を過ごしていただけたのであれば嬉しい限りです。

本事業は、「杉並区次世代育成基金」を活用して、次世代を担う子どもたちが様々な体験・交流を経て、夢を描き、その夢に向かって健やかに成長できる取り組みを支援する活動と伺っております。冬の名寄市での体験・交流が、本事業の目的に少しでも寄与できますよう、今後とも受け入れに最大限努力し、杉並区との絆を一層深めていきたいと考えております。

結びに、本事業の実施にあたりましてご尽力を賜りました関係者の皆様に重ねてお礼を申し上げますとともに、参加された児童の皆さんの健やかな成長並びに杉並区と名寄市の交流や相互理解がますます深まることを祈念申し上げ、挨拶いたします。

小学生名寄自然体験交流事業の概要

1. 目的

この事業は、杉並区次世代育成基金を活用して、交流自治体である名寄市に区内児童を派遣し、天体観測などの体験を通して自然の雄大さや大切さを学ぶとともに、名寄市の小学生との交流により、互いに尊重し合い、学びあう中で、豊かな人間性を育むことを目的としています。

2. 事業のスケジュール

令和7年 10月31日(金)	結団式・第1回事前学習会・保護者説明会
11月7日(金)	天文学習会(星空観望会)※任意参加
11月15日(土)	オンライン交流会
12月9日(火)	第2回事前学習会・保護者説明会
12月26日(金)～12月28日(日)	自然体験交流(北海道名寄市派遣)
令和8年 1月9日(金)	学習相談会・保護者説明会
2月7日(土)	学習成果発表会

3. 派遣児童名簿(学習・行動班)

班	氏名	学校名	学年	班	氏名	学校名	学年
1班	鈴木 凱士	東田小学校	5	3班	久野 奏	高井戸第三小学校	6
	高見 凛太郎	桃井第五小学校	6		近藤 和	四宮小学校	5
	野田 つぐみ	高井戸東小学校	6		竹内 結衣	高円寺学園	6
	廣瀬 心美	桃井第二小学校	5		田中 逢香	杉並第十小学校	5
	古岡 茜	馬橋小学校	5		土屋 勇登	沓掛小学校	5
2班	入江 ふみの	東田小学校	5	4班	石橋 遥香	三谷小学校	5
	熊谷 紗由香	桃井第五小学校	5		片岡 啓	高井戸第二小学校	6
	小松 悠	高井戸小学校	5		田上 陽菜乃	久我山小学校	5
	永井 柚羽	堀之内小学校	6		村田 雅紀	天沼小学校	5
	向井 克志	桃井第一小学校	5		山本 壮一朗	桃井第二小学校	5
5班	飯田 悠真	早稲田実業学校初等部	5	5班	飯田 悠真	早稲田実業学校初等部	5
	大場 千歳	松ノ木小学校	6		大場 千歳	松ノ木小学校	6
	瀧澤 みり恵	高井戸第二小学校	5		瀧澤 みり恵	高井戸第二小学校	5
	前田 莉子	桃井第四小学校	6		前田 莉子	桃井第四小学校	6
	渡辺 楓大	荻窪小学校	5		渡辺 楓大	荻窪小学校	5

4. 引率者

本橋 忠旗	高井戸第四小学校校長	松田 直也	教育人事・指導課指導主事
山岸 勘人	桃井第二小学校主任教諭	牛山 進一郎	生涯学習推進課長
花田 実結	桃井第二小学校養護教諭	岸本 彩	生涯学習推進課管理係長
一杉 大介	沓掛小学校主任教諭	木下 潤一郎	生涯学習推進課管理係
野地 和香奈	浜田山小学校教諭	今井 愛美	生涯学習推進課管理係
長澤 優子	富士見丘小学校主任教諭	山口 京子	社会教育センター
木村 正太	済美小学校主任教諭		

ほか看護師1名

小学生名寄自然体験交流事業(令和7年度)行程表

	1日目[12月26日(金)]		2日目[12月27日(土)]		3日目[12月28日(日)]	
時間	曇り時々雪	最高気温 - 1.2℃ 最低気温 - 8.0℃	曇り時々雪	最高気温 - 6.9℃ 最低気温 - 11.8℃	晴れ時々晴れ	最高気温 - 2.8℃ 最低気温 - 7.3℃
6			6:00	起床	6:00	起床
7	7:30 7:45	児童集合 出発式	7:00 7:10	休暇村コテージ発 なよろ温泉サンピラー着(朝食)	7:00 7:10	休暇村コテージ発 なよろ温泉サンピラー着(朝食)
8	8:00	杉並区役所発	8:15 8:30	なよろ温泉サンピラー発 北国博物館着	8:15 8:25 8:55	見送り式 なよろ温泉サンピラー発 もち米の里☆なよろ着
9	9:20	羽田空港着		北国博物館見学	9:15	もち米の里☆なよろ発
10			10:00	名寄児童と対面式	10:35	旭山動物園着
11	11:10	羽田空港発(JAL553便) 昼食(機内)		スノーシュー トレッキング & 宝探し		グループ行動
12	12:50	旭川空港着	12:15	昼食		昼食(園内)
13	13:20	旭川空港発		雪あそび		
14			14:00 14:15 14:30	名寄児童とお別れ式 北国博物館発 サンピラー交流館着	14:30	旭山動物園発
15	15:40	休暇村コテージ着		カーリング	15:00	旭川空港着
16	16:35 16:40	休暇村コテージ発 なよろ市立天文台きたすばる着 天文台見学	16:30	サンピラー交流館発	16:20	旭川空港発(JAL556便)
17	17:40 17:50	なよろ市立天文台きたすばる発 なよろ温泉サンピラー着 入浴	17:00	なよろ市立天文台きたすばる着 プラネタリウム鑑賞		
18	18:40	夕食	18:20 18:30	なよろ市立天文台きたすばる発 なよろ温泉サンピラー着 入浴	18:15 18:50	羽田空港着 羽田空港発
19	19:30 19:40	なよろ温泉サンピラー発 休暇村コテージ着	19:20	夕食	19:40	杉並区役所着・到着式
20		実験タイムと学習まとめ	20:10 20:20	なよろ温泉サンピラー発 休暇村コテージ着	20:15	解散
21	21:00	就寝	21:00	就寝		

※ 結団式・第1回事前学習会 令和7年10月31日(金)

この日が初めての顔合わせ。自己紹介などを通じて一緒に学ぶ仲間や先生と交流を回り、名寄の気候や農作物、文化、歴史など様々なことを学びました。



※ 天文学習会 令和7年11月7日(金)

天文台「きたすばる」の職員の方から、名寄市の説明を聞き、名寄市への理解が深まり、杉並との違いに気づきを得ることができました。また、宇宙や天体についての話を聞いた後、実際に天体望遠鏡を使って天体観測を行いました。



※ オンライン交流会 令和7年11月15日(土)

名寄市とオンラインでつながりました。名寄市職員の皆さんから「北国博物館」や天文台「きたすばる」についてのお話を聞いたり、名寄市の児童とご当地クイズ大会をするなど交流を深めました。昨年度派遣事業に参加した児童も出席してくれました。



※ 第2回事前学習会 令和7年12月9日(火)

名寄市派遣に向けて、各々が自ら考え学習課題を設定しました。また、グループごとに旭山動物園での行動計画を立てました。



※ 名寄派遣 第1日目 令和7年12月26日(金)

区役所での出発式のあとは、早速、北海道名寄市へ向かいます。これからの3日間では、事前に設定した学習課題について学ぶため、名寄の皆さんから話を聞いたり、観察・調査・実験などに取り組みます。



きたすばるで天文学習

天文台「きたすばる」では、光学赤外線天体望遠鏡「ピリカ」を前に望遠鏡の仕組みを学びました。



実験タイムと学習のまとめ

夕食後は、それぞれ考えてきた実験に挑戦しました。



※ 名寄派遣 第2日目 令和7年12月27日(土)

北国博物館での調べ学習

北国博物館では、職員の皆さんから「名寄の気候・地形・動植物」や「大昔から現在までの人々の生活」「アイヌの文化」などについて学びました。



対面式・スノーシュートレッキング

名寄市児童との対面式・交流を行ったあとは、スノーシュートレッキング体験へ。深く積もった雪をかき分けながら、真っ白な平原を歩きました。一緒に宝物を探す中で、杉並と名寄の児童の仲はより一層深まりました。

対面式



スノーシュートレッキング



カーリング体験・プラネタリウム鑑賞

サンピラー交流館では、初めてのカーリング体験。コーチの丁寧な指導のもと、最後には簡単なゲームもできるようになりました。

たくさん体を動かした後は、天文台「きたすばる」に移動。プラネタリウム鑑賞では、いろいろな星の説明を聞くことができました。

カーリング体験



プラネタリウム鑑賞



名寄派遣 第3日目 令和7年12月28日(日)

朝食後、名寄市を出発する私たちを、岸教育長をはじめ、お世話になった名寄の方々が見送りに来てくださり、温かな言葉をいただきました。途中、道の駅でお土産の買い物をし、旭山動物園へ向かいました。旭山動物園では、学習行動班ごとに自分たちで考えたルートで行動し、見学をしました。



見送り式



道の駅



旭山動物園でのグループ行動



帰り道



到着式



学習成果発表会 令和7年2月7日(土)

今回の交流事業を通して学んだこと、感じたことなどを、一人ひとりの児童が作品や作文にまとめステージ上で発表を行いました。



学校名	東田小学校	5 年	氏名	鈴木 凱士
-----	-------	-----	----	-------

楽しかったカーリング体験

僕は名寄市で印象に残ったカーリングについてまとめました。

カーリングの歴史は 16 世紀のスコットランドが発祥です。もともとは、凍結した湖や川で平らな自然石を滑らせて遊ぶゲームとして楽しまれていました。その後、1924 年に初めてオリンピック競技として実施され、1998 年の長野冬季オリンピックで正式種目となりました。

道具はストーンとブラシを使い、グリッパーという滑り止めのついた靴を履きます。氷の上でやると、強力な磁石のようでした。

ルールは、1 チーム 4 人で、1 人 2 個のストーンを交互に投げます。得点は、ハウスという真ん中の丸いまとに一番近いストーンのチームだけがもらうことができます。僕は、ハウスの周りにストーンがあっても得点が入らないことに驚きました。相手チームは必ず 0 点になります。これを 10 回繰り返します。

ストーンの投げ方は、正しい姿勢をつくり、後ろの足で氷を押して前に滑り出し、進みながらストーンを前に押し出し、回転をかけて手を放します。投げられたストーンは、2 人のスイーパーがブラシを

前後に素早くこすり、進む方向に合わせて動き続けます。ストーンはとても重いので、まっすぐ投げるのが大変でした。

カーリングの魅力は 5 つあります。

- 1 「作戦を考えるのが楽しいこと」
- 2 「チームで協力するのが楽しいこと」
- 3 「力がなくてもできるスポーツであること」
- 4 「氷の上で動くのが楽しいこと」
- 5 「上手に決まった時の達成感があり楽しいこと」です。

今回の体験をしてみて、氷の厚さが 7cm から 8cm あること、ストーンの重さが 20kg もあること、実際にやってみたら股関節が筋肉痛になったことなど、体験して初めて知ることができました。とても貴重な経験でした。東京ではなかなか体験できませんが、機会があればまたカーリングをやってみたいと思います。



学校名	桃井第五小学校	6 年	氏名	高見 凜太郎
-----	---------	-----	----	--------

名寄の雪とスノーシュートレッキング

名寄市に行って一番印象に残ったことはスノーシュートレッキングです。

最初に、名寄の見渡す限り一面の雪景色におどろきました。雪を固めようとして握っても固まらないサラサラの雪に、さらにおどろきました。名寄の雪質は日本一と評されていて、時に氷点下 30 度にもなる厳しい寒さによって、パウダースノーよりもさらにキメの細かいシルキースノーになるそうです。

スノーシュートレッキングの時、特に記憶に残ったことが三つあります。

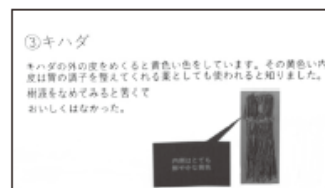
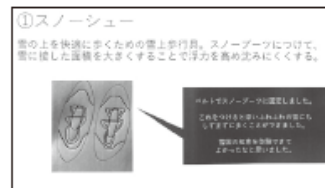
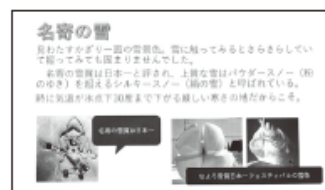
一つ目はスノーシューのことです。雪が深かったので、スノーブーツの底にスノーシューをつけました。これをつけると、深いふわふわの雪にもしずまず歩くことができました。雪国の知恵を体験できてよかったなと思いました。スノーシュートレッキングは、小学校の移動教室でやったスコアオリエンタリングよりも疲れました。なぜだろうと考えた時に、雪の上を歩いたからかなと思いました。杉並区の冬では絶対に体験できない、一面の雪景色の林の中を歩いて楽しかったです。

二つ目は雪に残っていた動物の足跡です。林の中を歩いていると、動物の足跡がありました。こんなに雪深いのに動物が活動していることにおどろきました。後に行った北国博物館で、北海道と本州は海

で分かれているので生息している動物が違うんだと教えてもらいました。この足跡もエゾシカだったのかなと想像しました。次に行った時は、森の中でエゾシカに会いたいなと思いました。

三つ目はキハダの内皮のことです。スノーシュートレッキングのクイズで、キハダの内皮は薬になっていたと書いてありました。内皮はあざやかな黄色をしていました。樹液をなめてみると、とても苦くておいしくはなかったです。

たくさん体験と驚き、いろいろなことを知れた 3 日間でした。これからも、いろいろなことに興味をもち、驚き、知って、これからの生活に活かしていきたいです。



学校名	高井戸東小学校	6年	氏名	野田 つぐみ
-----	---------	----	----	--------

寒いからこそ!! ~ in 名寄 ~

私が住む杉並区は普段、真冬でも年に一回雪が降るか降らないかぐらいの気候です。コートと手袋があれば街を歩けるような環境にずっと住んでいます。しかし名寄では、空港から外に出た瞬間、ピリつくような冷たい空気が私を包み、壮大な土地に積もったたくさんの雪が私の目に飛び込みました。それでも、コテージの管理人さんから「今年は、例年よりも暖かく、雪が少ない。」という話を聞きました。その話を聞いて、驚くと同時に二つの疑問が浮かびました。

一つ目は、「なぜこんなに杉並区と名寄市では気温差が大きいのだろう」ということです。家に帰って調べたところ、名寄市が盆地にあって冷気が溜まりやすいこと、シベリア大陸からくる冷たい季節風の影響を受けることが分かりました。

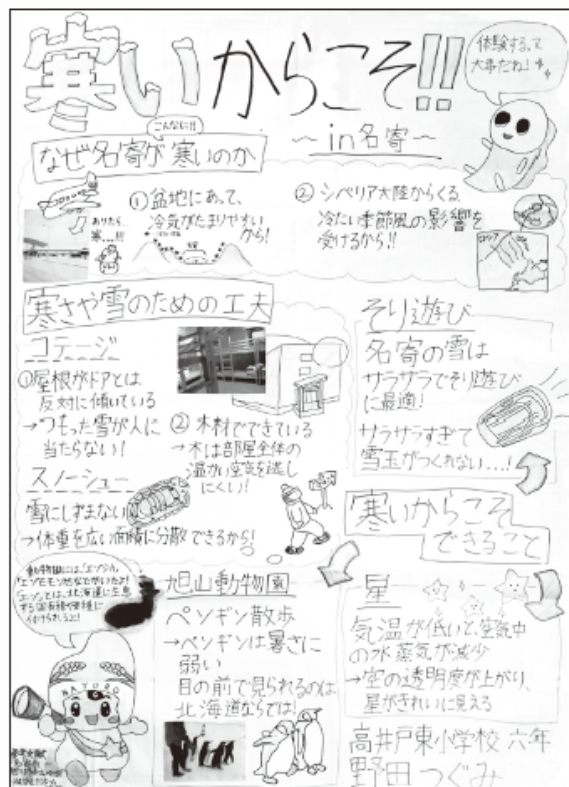
二つ目は、「名寄に住んでいる人は、雪や寒さをしのぐためにどのような工夫をしているのだろう」ということです。私は泊まったコテージをよく見て、二つの工夫に気づきました。

工夫①は、屋根の形がドアと反対側に傾いていることです。こうすることで屋根に雪が積もらないように、そして積もった雪が落ちる時に人に当たらないようになっているのではないかと思います。

工夫②は、コテージの建築材料として木材が使われていたことです。暖かそうに見えたので、帰ってから調べたところ、木は熱伝導率が低く、部屋全体の暖かい空気を逃しにくいということが分かりました。また、旭山動物園では滑りやすい坂などの道に、お客さんが滑らないよう人工草が敷いてあり、これも工夫だと思いました。

このようにたくさんの工夫が施してある中、たくさんの雪が降るからこそできることもあります。例えばそり遊びです。杉並区では雪が降ることが少なく、降っても地面が近くてカチカチで、たとえたくさん降ったとしてもゴロゴロの小さな雪玉が転がっていて安心して遊べません。その点名寄では、毎年たくさんの雪が降り、雪もサラサラです。おかげで名寄市の小学生との交流会ではとても楽しく遊べました。

名寄自然体験交流事業では、テレビやインターネットだけでは分からないことを、たくさんの体験を通して知り、いろいろなことに気がつきました。名寄市の魅力を、たくさんの人に伝えていきたいです。



学校名	桃井第二小学校	5年	氏名	廣瀬 心美
-----	---------	----	----	-------

旭山動物園と上野動物園の違い

~ 私が見たかった「ペンギン」「ホッキョクグマ」「アザラシ」について ~

私は動物が大好きで、名寄自然体験交流事業に応募しました。体験交流のプランに旭山動物園の見学がありました。旭山動物園では「行動展示」という方法を取り入れています。行動展示とは、動物が本来持っている動きや暮らしをそのまま見せる展示のことで、旭山動物園が人気になった大きな理由です。以前から冬の旭山動物園に行くことが夢でした。そこで二つの動物園のペンギン、ホッキョクグマ、アザラシの展示方法を実際に見て学びたいと思いました。

まず、緯度や気温、面積の違いについて調べました。12月の気温差は約14度以上あり、旭山動物園は一面が雪に覆われており、寒い地域に生息する動物たちの行動展示につながっていると感じました。東京では見ることで見えない景色でした。

次に、ペンギンについてです。私は旭山動物園の「ペンギンの散歩」をとても楽しみにしていました。冷たい海や涼しい気候で生活をするキングペンギンやジェンツーペンギンが、ヨチヨチと歩くだけでなく、「トボガン」といってお腹を雪に滑らせながら進む姿を見ることができました。今回残念ながら、ペンギン館にある水中トンネルでの「空飛ぶペンギン」を見ることはできませんでした。ペンギンは空を飛ぶことはできません。しかし、卵を産み羽をもつ鳥の仲間です。水中では獲物をとるため自由自在に泳ぐことができるので、空を飛ぶようにビュンビュン泳ぐペンギンが見られる水中トンネルは大人気の場所です。次回は必ず行ってみたいです。上野動物園では、暖かい地域（アフリカ大陸）に生息するケープペンギンを見ることができそうです。

ホッキョクグマは、旭山動物園では本来、高い所から豪快にダイブする姿を見ることができ行動展示が有名ですが、今回は歩いている所や寝ている姿を見ることができました。上野動物園では、泳いでいる様子や餌を食べている姿をガラス越しに観察できました。アザラシは、旭山動物園では円柱型の水槽があります。上下に泳ぐ姿を見ることができ、まるで空を飛んでいるように見えるのが特徴です。上野動物園では、横に泳ぐ姿を見ることができそうです。

説明パネルにも違いがありました。旭山動物園ではすべて飼育員さんによる手書きで、動物への親しみやすさを感じる工夫がたくさんありました。上野動物園では印刷された説明で、動物の分類や生態を詳しく学ぶことができました。

飼育員さんとお客さんの関わりについては、旭山動物園ではペンギンの散歩の際、外国人観光客に英語で優しく案内や誘導をしていて、とても驚きました。上野動物園では、イベントなどで飼育員さんがお客さんの前でお話をしたり、質問に答えたりするそうです。

私は二つの動物園を比較して調べることで、同じ日本でも、雪国の北海道と東京では動物の種類や展示方法が違うことを知りました。旭山動物園は以前、廃園の危機にあったそうですが、1997年から行動展示を取り入れ、様々な工夫と努力によって人気の動物園になったと映画を見て知りました。憧れの旭山動物園に行くことができ、とても嬉しかったです。三日間の体験交流事業を通して、自然や動物の大切さを考え、友達と協力する力を身につけることができましたと思います。名寄の美しい雪景色、北海道ならではのサラサラな雪の感触、初めてのことばかりで感動しました。私たちは三日間で多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。



学校名	馬橋小学校	5年	氏名	吉岡 茜
-----	-------	----	----	------

名寄の雪 ～雪質日本一と言われる北海道のパウダースノー～

私は名寄市で雪がたくさん積もっているのを見てビックリしました。辺り一面真っ白で、雪はサラサラのパウダースノー。踏むとプクプクと鳴って楽しかったです。名寄市では、杉並区とは違う雪の質感や量などを体験したので、名寄市の雪についてまとめました。

まず、名寄市と杉並区の雪の違いについて調べました。名寄市の雪はサラサラで乾いていて、ふんわりと積もっていました。杉並区の雪は、少し固くて水分が多く、道の端などに張り付くように積もっていました。また、名寄市では雪の量が70cmくらいで学校が休校になるそうです。次に、名寄市の降雪の深さは年間で829cmです。対して、杉並区の降雪の深さは年間で8cmです。

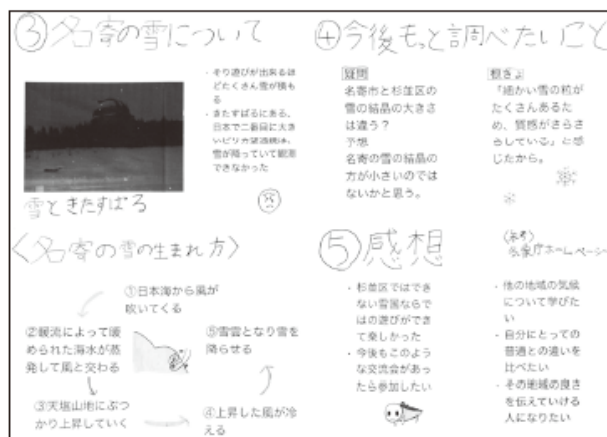
次に、名寄市の冬の寒さについて実験しました。当日の最低気温は-7.2度でした。まずは、タオルを凍らせる実験をしました。水で濡らしたタオルを外で回すと、すぐにパリパリに凍りました。さらに、

アイスキャンディーを作りました。ジュースを型に入れ、1日外に置くとアイスキャンディーができました。

名寄市ではソリ遊びができるほど、たくさんの雪が積もっていましたが、なぜ名寄市には雪が降るのでしょうか。それは、日本海側から吹いてくる季節風と海水が蒸発した水蒸気が交わり、天塩山地にぶつかって上昇します。その風が冷えて雪雲になり、名寄に雪を降らせるからです。

名寄市から戻ってきた後、「名寄市と杉並区の雪の結晶の大きさは違うのか？」と疑問を持ちました。名寄市の雪はサラサラなので、杉並区よりも細かい雪の粒がたくさんあると予想しました。

私は名寄市で、杉並区ではできない雪国ならではの遊びができて楽しかったです。また、今後もこのような交流会があったら参加し、他の地域についても学びたいです。そして、自分の「普通」との違いを比べ、その地域の良さを伝えていける人になりたいです。



学校名	東田小学校	5年	氏名	入江 ふみの
-----	-------	----	----	--------

私の好きなものがいっぱい名寄市

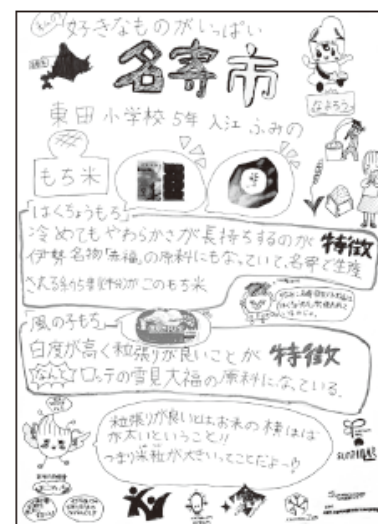
私は小学生名寄自然体験交流事業を知り、楽しそうだと思い調べてみると、名寄には私の好きなものがたくさんあり、ぜひ行ってみたいと思い応募しました。私は名寄市の3つのことを調べました。

1つ目は「もち米」です。私は大福が好きなので調べることにしました。名寄市の代表的なもち米は2つあります。1つ目は「はくちょうもち」です。冷めても柔らかさが長持ちするもち米で、名寄市で生産されるもち米の約5割になります。2つ目は「風の子もち」です。色が白く粒張りが良い品種で、「雪見だいふく」に使われているそうです。「はくちょうもち」が使われている名寄名物のソフト大福は、柔らかくお餅みたいな食感でした。大きかったのですが、美味しくて完食できました。

2つ目は「雪」です。東京では雪が積もることは珍しく、雪国の名寄に行けるのがとても楽しみでした。名寄市の雪は「パウダースノー」という雪で、水分が少なくサラサラしているのが特徴です。私は雪に種類があることさえ知りませんでした。名寄で実際に雪に触てみると、本当にサラサラでびっくりしました。杉並ではぎゅっとにぎれば固くまとまった雪玉が作れますが、名寄の雪はすぐ崩れてしまいます。他にも、杉並区では少し雪がふっただけで傘をさすのに、名寄では冬に雪がふることが日常なので、傘をささないことにびっくりしました。

3つ目は「動物」です。名前だけは知っていた旭山動物園について調べてみると、動物の見せ方に工夫があり、ホッキョクグマのダイブやペンギンの散歩が人気でした。実際にペンギンの散歩を見ましたが、人がとても多く、人気なのが伝わってきました。ですが、2回目は最前列で見られて、とても近くてびっくりしました。他にも、私の好きな「オオカミ」もいました。名寄市にいる野生動物はキタキツネなどで、町中でも見るそうです。杉並区にいる野生動物はハクビシンなどで、私は1回だけ見たことがあります。なぜ動物の種類が違うのかというと、氷河期に海面が下がり、北海道とロシアがつながってヒグマなど外国の動物が来たが、本州とはつながらなかったためだそうです。なるほどと思いました。

私は名寄どころか北海道に初めて行きました。そして、その名寄での貴重な体験は宝物になりました。それは、名寄市や杉並区役所の方々、先生や友達がいたおかげです。ありがとうございました。私はこれからもこの体験を大切にしていきたいです。



学校名	桃井第五小学校	5 年	氏名	熊谷 紗由香
-----	---------	-----	----	--------

魅力あふれる名寄市

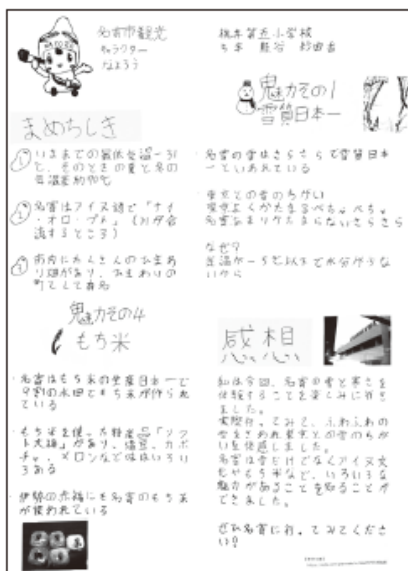
私が名寄で一番楽しみにしていたことは、名寄の寒さと雪質です。マイナス 10 度を超える寒さはどんなものか、雪質日本一と言われた雪は東京とどんな違いがあるのか知りたと思っていました。そして、実際に名寄に行って印象に残ったことは、「雪」「アイヌ文化」「ピリカ望遠鏡」の三つです。

1つ目は、「雪」についてです。名寄では外が一面真っ白で、膝くらいの深さまでありました。触ってみるとさらさらしていて、足が雪の中に沈んでしまい、早く歩けません。東京では雪が降ってもすぐとけてしまうのに、名寄ではすぐに溶けない理由は、気温がマイナス 5 度以下で水分が少ないからです。東京でお正月に雪が降った時の雪は、雪玉になるとすぐ氷みたいになりましたが、名寄では雪を手で握っても雪は雪玉のようにならず、同じ雪でも全然違うことを知りました。

2つ目は、「アイヌ文化」についてです。名寄も含め北海道には、昔から現在にいたるまでアイヌ民族が住んでいて、北国博物館ではアイヌ民族の生活や文化について、たくさんの展示を見ることができました。名寄の地名も、アイヌ語で「川が合流するところ」という意味の「ナイ・オロ・プト」という言葉が由来となっています。アイヌの人々は、自然には神がいてと信じて、大切にしてきました。また、住居は寒さを防ぐ作りになっていて、厳しい寒さの中で生きる工夫がありました。アイヌ民族の生活と今の生活の違うところが多く、とても興味深かったです。

3つ目は、「ピリカ望遠鏡」についてです。きたすばるには、公開天文台の中で日本で二番目に大きなピリカ望遠鏡があります。ピリカ望遠鏡の「ピリカ」はアイヌ語で「美しい」という意味です。ピリカ望遠鏡は、人間の目の 52000 倍もの光を集められます。これだけ大きな望遠鏡を見るのは初めてでした。今回は天候が悪く星を見ることができませんでしたが、いつかきれいな星空を見てみたいです。

この他にも名寄には、日本一の生産量のもち米やそれを使ったソフト大福などのおいしい食べ物、一面に咲くひまわり畑などたくさんの魅力がありました。ぜひ名寄に行ってみてください。そして、このような体験ができたのは多くの人ののおかげです。ありがとうございました。



学校名	高井戸小学校	5 年	氏名	小松 悠
-----	--------	-----	----	------

名寄と杉並のちがいを

ぼくは、名寄で実際に雪で遊んだり、北国博物館で北海道のくらしを学んだりして、名寄と杉並のちがいについてまとめようと思いました。

まず、名寄と杉並には、くらしや食べ物、気温など色々なちがいがあります。その中でぼくは、くらし、星、動物、気温、食べ物のことで考えたことや調べたことを伝えます。

最初はくらしについてです。杉並区はスーパーやコンビニが多く、交通で都心へもアクセスしやすいためとても便利です。ですが、自然を感じられる場所が少ないです。それに比べ名寄は、広大な自然が感じられ、雪とふれることが多く、スノーシュー体験などもできます。しかし、都市の効率性が杉並よりはないと感じます。では、なぜこのようなちがいが生まれたのでしょうか。それは歴史的背景にあります。

昔から名寄は本州とつながっていない、大陸とつながっていたことで、本州とはちがう北海道独自の文化が生まれたのです。

次は星についてです。あまり見える星は変わりませんが、杉並では光害が多いなどの原因があり、明るい星は見えますが多くの星は見えにくいです。ただし名寄は光害が少なく、空気が澄んでいるため明るい星から暗い星まで見ることができるのです。また、ピリカ望遠鏡などもあり、星を見るのに適しています。

次は動物についてです。名寄ではヒグマやシマエナガなど北海道特有の動物が多いです。杉並はハトやイタチなど都市に適した動物が多いです。ぼくは実際にシマエナガを見ることができ、可愛かったです。

次は気温についてです。これはぼくも行ってみましたが、かなりの差がありました。杉並区の平均気温は 16℃に対し、名寄は 6℃ととても低く、最低気温は杉並「-2.4℃」、名寄は「-38.5℃」とな

っていました。手袋なしに外へ出ると手がいたくなりました。それぐらい寒かったです。

最後は食べ物についてです。名寄は、やはりもち米です。名寄のもち米で作った大福は最高でした。

このように、名寄と杉並にはくらしや気温など、色々なちがいがあります。これは昔の環境など歴史的なところが大きく関わっていると、ぼくは名寄に行って考えました。



学校名	堀之内小学校	6 年	氏名	永井 柚羽
-----	--------	-----	----	-------

カーリングの魅力 ～初めてのカーリング～

私はカーリングの魅力について調べました。このテーマにした理由は、私が初めてカーリングをして、みんなにカーリングの魅力を伝えたいと思ったからです。

まず、カーリングの始まりについては 1401 年～1500 年にスコットランドで、凍った池の上で石を滑らせる遊びから始まりました。カーリングの歴史は、1801 年～1900 年にルールが整備され、国際的なスポーツになりました。

日本には 1936 年頃、およそ 90 年前に伝わりました。ドイツで行われていた冬季オリンピックに参加した日本選手がカーリングのストーンを日本に持ち帰り、長野県の諏訪湖でデモンストレーションを行ったことが始まりだといわれています。

では、なぜ「カーリング」と呼ばれるようになったのでしょうか？

それは、石が回転（カール）する様子に由来するとされています。

1998 年にオリンピックの正式競技に採用されました。日本女子代表チームは過去にオリンピックで銅メダルと銀メダルを獲得しています。

カーリングのルールは、4 人 1 組のチームで、円の中心にストーンを近づけるスポーツです。相手のストーンの邪魔をしたり、はじき出したりします。『氷上のチェス』とも呼ばれるように、頭脳的でスリリングなスポーツです。10 回で合計得点を競います。両チーム交互に 8 個ずつストーンを投げ、ゲーム終了。円の中心が一番近いストーンを投げたチームの勝ちです。

私は名寄市のサンピラー交流館で初めてカーリングを体験しました。まずイメージと違ったことは、ストーンが意外に重かったことです。3kg くらいの軽いストーンだと思っていたのですが、約 20kg あると聞いて驚きました。

難しかったことは、ストーンの速度調整と、円の中に真っ直ぐ投げることです。ストーンの速度調整はブラシのこすり具合で変わります。沢山擦れば速くに進み、少なく擦れば短く進みます。カーリングを学んだ後にミニゲームをしたのですが、狙ったとおりに相手チームのストーンをはじくことが出来て、とても嬉しかったです。

この交流事業では、普段できない貴重な経験が沢山出て、発見や学びも多く、カーリングの魅力を学ぶことが出来ました。そして多くの方々に協力していただきました。本当にありがとうございました。

この交流事業では、普段できない貴重な経験が沢山出て、発見や学びも多く、カーリングの魅力を学ぶことが出来ました。そして多くの方々に協力していただきました。本当にありがとうございました。



学校名	桃井第一小学校	5 年	氏名	向井 克志
-----	---------	-----	----	-------

名寄の寒さを活かした「カーリング」

北海道の北に位置する名寄市は、夏と冬の寒暖差が 60 度にもなります。特に冬は厳しい寒さが続き、零下 30 度を超えることもあります。長く続く冬を楽しく過ごすために、名寄市では「名寄の冬を楽しく暮らす条例」というきまりを作って、いろいろな取り組みを進めているそうです。その一つがスキーやカーリング等の冬のスポーツやレクリエーションの充実です。ぼくは、サンピラー交流館で初めて体験したカーリングについてまとめました。

カーリングは、15～16 世紀のスコットランドあるいは北欧で、子どもたちが凍った池の上で石をすべらせて遊んでいたのを、大人がスポーツに発展させたのが起源です。現在では世界各国で広く行われており、1998 年の長野オリンピック以降、冬季オリンピックの正式種目として行われるようになりました。

カーリングは「氷上のチェス」ともよばれ、相手の先を読んだ高度な戦略が勝敗の決め手となります。氷上でハウスという円に向かってストーンをすべらせ、点数を競うスポーツです。投げたストーンが円の中心に最も近いチームに点が入ります。

用具はブラシ、ストーン、シューズの 3 つ。ストーンは直径 29cm、石の厚さは最低約 11.5cm、重さ 19kg でとても重く、すべりやすい花崗岩系の石でできています。最初は重くて動かしにくかったけれど、すべり出すとスピードにのってすべってしまい、不思議な感覚でした。現在、東京都内でカーリングが楽しめる施設は 3 か所ほどあるそうです。今度家族でも行ってみたいです。

めったに雪が降らない東京に暮らすぼくたちは、雪が降ると「うれしい」と思うけれど、雪国に住んでいる人たちにとっては毎日の雪かきや寒さと向き合う生活は決して楽なことばかりではないと思います。しかし、それを「町の魅力」として活用する名寄の皆さんの思いと取り組みに感心しました。今度カーリングをする時は、名寄のことを思い出して楽しみたいです。



学校名	高井戸第三小学校	6年	氏名	久野 奏
-----	----------	----	----	------

名寄の今と昔の違い

僕がこのテーマについて調べようと思ったのは北国博物館で見た今と昔の建物や暮らしの違いに驚き、面白かったからです。

僕はまず「名寄の気候」について調べました。2025年の年間平均気温は7.7℃のところ、1980年は5℃で、2.7℃も上がっていました。今の最深積雪量は1980年より28センチメートルも減っていました。これは地球温暖化によるもので、名寄市は「地球温暖化対策実行計画」という取り組みでゼロカーボンシティを目指して再生可能エネルギーを導入し、積極的に環境を守ろうと行動していました。

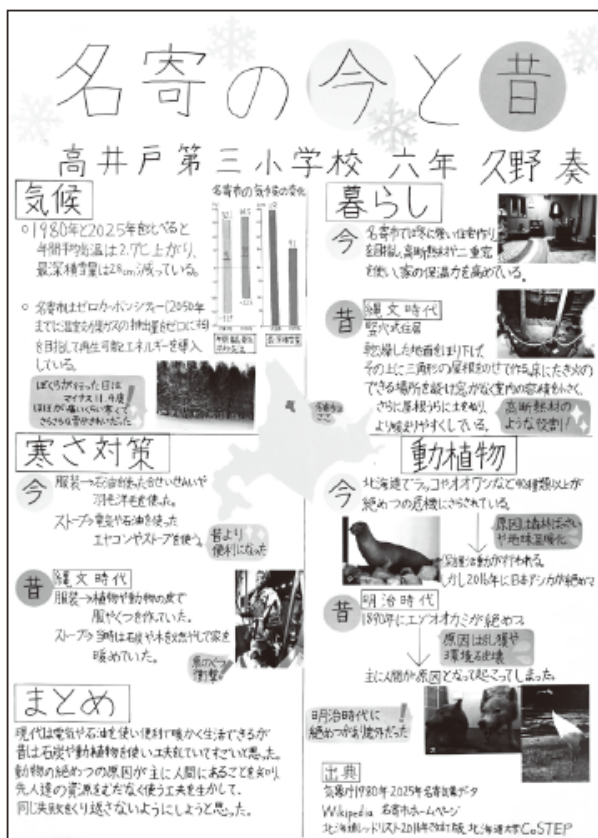
僕が一番驚いたのは家の工夫です。縄文時代の竪穴住居は床に焚火の場所があり、窓がなく、室内の容積を小さくすることで室内が温まりやすくしていました。さらにその熱が逃げないように冬は屋根の裏や壁に土を塗っていました。今では高断熱材がその役割を果たしています。当時の限られた材料の中で暖かい家を作り生き延びてきた先人たちは賢いと思いました。

次は寒さ対策について調べました。縄文時代は炭灰や木材を燃やして室内を暖め、動植物などの皮で

作った服を着て寒さをしのいでいました。現代は電気や石油を使ったエアコンやストーブが主流で、石油を使った合成繊維や羽毛、羊毛を使った服を着ています。人間は寒さから身を守るために今も昔も変わらず動植物を利用して

いました。次は「動植物」について調べました。北海道でエゾオオカミが1890年後半に絶滅しました。原因は人間による環境破壊や乱獲です。現代もラッコなど四十種類が絶滅危惧種に入っていて、名寄の人たちが絶滅を防ぐために森の保全や繁殖活動を積極的に行っていると知って驚きました。

私は小学生名寄自然体験交流事業で、昔の人が工夫をして生き抜いてきたことがとても印象に残りました。今も昔も名寄の人たちが課題に向き合い対策をしている事が素敵だと思いました。貴重な体験の場を設けてくださりありがとうございました。



学校名	四宮小学校	5年	氏名	近藤 和
-----	-------	----	----	------

名寄でサバイバル!? ～3日間探してみたくらしの工夫～

みなさんは12月の名寄と聞いて、どんな様子を想像しますか。私の第一印象は「寒い」「暗い」という、さんざんなものでした。コテージに着いてまず思ったのは「リュックで来てよかった」ということです。雪の上ではスニーカーが動かず、雪道は杉並の道とは違うということを実感しました。次のおどろきは、午後4時すぎには外が真っ暗になったことです。名寄は杉並区より緯度が約10度程高く、日の入りが早いのです。私は雪国でくらす工夫を探そうと決めました。

まず見つけたのは雪を楽しむ工夫です。そのジャンプ台を作っていると、名寄の小学生が「長く、ならだかに」と教えてくれました。その通りにするとくずれにくく、ころばず気持ちよくすべれました。調べてみると、角度変化がゆるやかな方が前につんのめらず安定する、という科学的な理由がありました。

二つ目に見つけたのは動物と助け合う工夫です。北国博物館では、毛皮が防寒着だけでなく家の断熱材にもなると学びました。智恵文では羊を毛のために育て、厳冬期は子羊を茶の間で育てたこ

ともあったそうです。昔は肉を捨てていたのに、「もったいない」という気持ちから、煮込みジンギスカンになったと知り、衣類も食も命のつながりの中にあると感じました。

旭山動物園では赤と青のパネルが印象的でした。赤は生まれた命、青は亡くなった命で、どちらも同じ重さで伝えています。動物を「見物するもの」ではなくパートナーとして大事にする姿に、北海道では人と動物の距離が東京より近いのだと感じました。

名寄には「冬を楽しむ暮らし条例」もあります。寒さや雪を楽しむに変える気持ちが、遊びや仕事、食べ物にまでつながっていると実感しました。暗いからこそ室内や家の中での楽しみが増え、旅行中は寒かったけど、心は温くなりました。私も自然を大切にしながら冬を楽しんでいきたいです。



学校名	高円寺学園	6 年	氏名	竹内 結衣
-----	-------	-----	----	-------

冬の北海道の生活とそこに生きる動物たち

4年生の夏に北海道に行ったとき、とても涼しく感じました。夏でも涼しい北海道で、厳しい冬の間、人々やそこで暮らす動物たちはどのような工夫をしているのか興味をもち、調べることにしました。

名寄の冬の平均気温は-9℃、1月～2月になると-15℃を下回るときもあります。東京との差は14℃～15℃ほどにものぼります。

厳しい寒さに適応するため、人々は多くの工夫をしています。例えば流雪溝。道路に水路を作って雪を運び、人力による除雪を減らします。またロードヒーティング。道路の雪を熱でとかし、車や人が通れるようにするものです。融雪槽では下水処理場から出る温水や、清掃工場でゴミを燃やすときに出る熱を利用して雪を溶かしています。他にも、降雪予想システム。市内のマルチセンサーで気温や風、雪雲の様子を観測し、降雪予想は除雪作業やロードヒーティングなどの他のシステムにも役立てられています。

さらに「無落雪の屋根」です。私が見た屋根は、「フラットルーフ方式」で無落雪の屋根の代表例です。頑丈な構造体で雪の重みに耐える設計になっています。

次に動物について調べました。北国博物館では動物たちの様子を模型で分かりやすく再現していました。エゾリス、エゾシカなど冬眠しない動物は毛の色が全体的に白っぽくなっていきます。よく知られているシマエナガも冬の姿です。ふわふわしていてかわいらしい、北海道の鳥です。夏はシュッとしていて全体的に茶色いです。他にも雪の下にクマが冬眠していたりと、この自然環境の中で多くの生き物たちが、それぞれの生き方で厳しい冬を越しています。

私は今回の派遣学習で体験を通して多くのことを学びました。名寄市は杉並区と違い、雪が多く、とても自然と近い場所であるように感じました。北海道のホームページを見たりする中で、その自然の中で寒さや雪をしのぐとする姿、また自然に適応した生活は素晴らしいと思いました。



学校名	杉並第十小学校	5 年	氏名	田中 逢香
-----	---------	-----	----	-------

北海道に住む「亜種」について

私は、小さいころから生き物の図かんを読むのが好きでよく読んでいました。そのため「亜種」という言葉を知っていて、気になっていたのでそれを調べて、まとめてみることにしました。

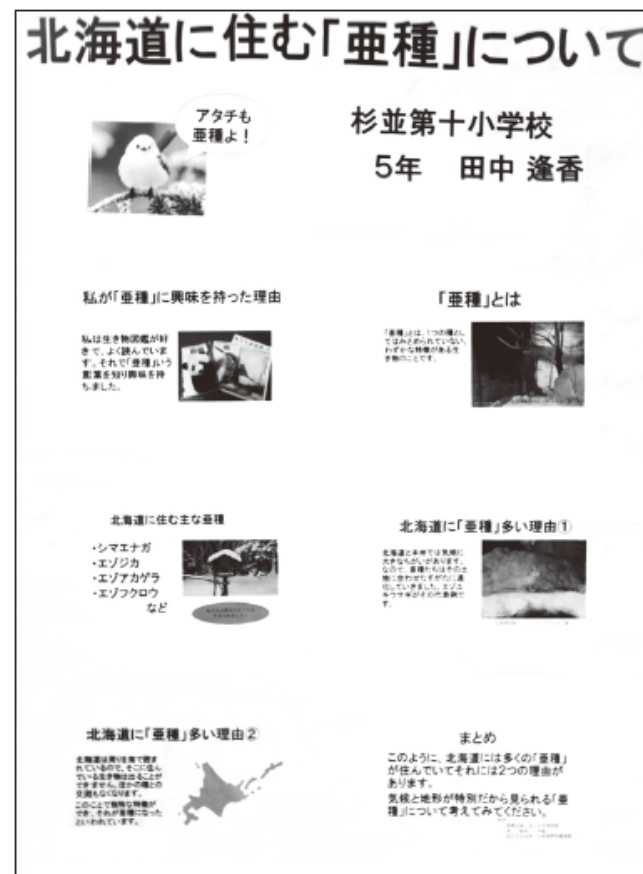
まず、「亜種」の意味を調べました。すると、亜種は一つの種としてはひとめとられておらず、本種と色や生息地にわずかなちがいがあある生き物のことだということが分かりました。動物園などで身近なトラも、九つの亜種に分けられると知り、びっくりしました。

次に、北海道にはどんな亜種がいるのかを具体的に調べてみると、現地で実際に見られたエゾリスのほかに、シマエナガ、エゾシカ、エゾモモンガなど、たくさんの亜種がいることが分かりました。私は北海道に亜種が多いことに二つの理由を見つけました。

一つめは地形です。青森県と北海道の間には海があり、特に、はう・歩くなどして地面を移動する動物や、動けない植物はわたることができなくなります。なので、そのような生き物は北海道から出られず、ほかの種との交流がなくなり、独自の進化をして亜種になっていったと考えられます。

二つ目は気候です。本州より気温が低い北海道では生き物がその土地に合った見た目や生態になり、亜種が増えていきました。例としては、エゾユキウサギやエゾオコジョが挙げられます。この動物たちのふわふわで白い冬毛には、北海道のきびしい寒さがえいきようしていることがよく分かります。

このように、亜種は地形・気候という二つの理由から北海道に多く確にんされています。こんなにすばらしい自然を持った北海道・名寄市に私が行くことができたのも、杉並区の方々のおかげです。今回できたきょうな体験をこれからの学習にも活かせるといいなと思います。本当にありがとうございました。



学校名	沓掛小学校	5 年	氏名	土屋 勇登
-----	-------	-----	----	-------

名寄と杉並の米作り

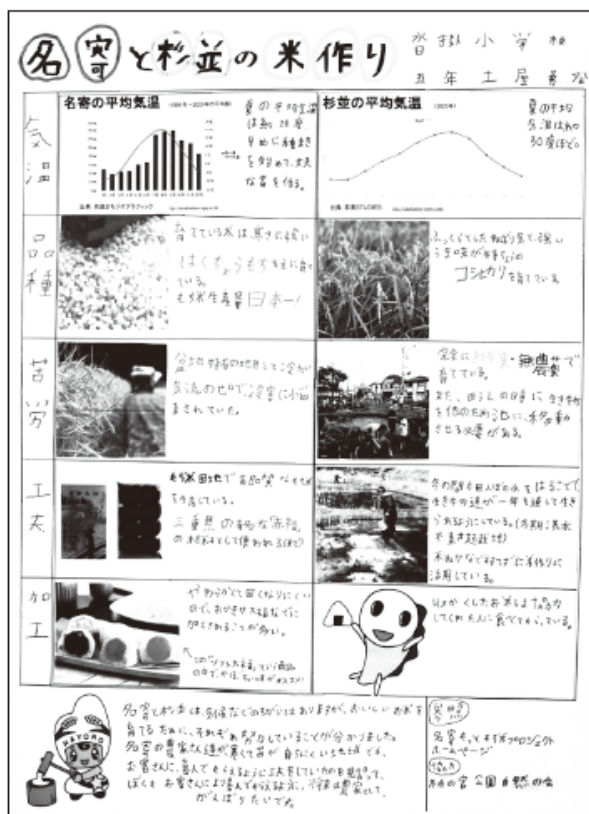
僕のお父さんは福島県で農家をやっており、寒い名寄ではどのように農業が行われているのかを知りたくて交流事業に参加しました。名寄はもち米の生産高が日本一と聞いてすごいなと思ったので、名寄と杉並の米作りについて調べてまとめました。

名寄は夏が短く平均気温が20度くらいのため、早めに種をまいて丈夫な苗を作っています。また、盆地特有の地形と冷たい気流が原因で冷害に悩まされていたので、品種改良をして、現在生産量の5割を占めている「はくちょうもち」などの寒さに強い品種が生み出されました。高品質なもち米を生産するために、うるち米（普通のお米）との受粉を防ぐ「もち米団地」が導入されています。もち米団地とは、うるち米をもち米の周りに一切植えず、もち米だけを育てる手法のことです。

名寄で生産された「はくちょうもち」は三重県の有名な「赤福」の材料としても使われているほど、やわらかく固くなりにくいのでお菓子の材料として使われることが多いです。特に「ソフト大福」は東京のコンビニなどで売っている大福とはもちもち食感や味が圧倒的に違い、おいしかったので驚きました。

次に、杉並区の米作りについてですが、杉並区の夏の気温は30度以上の日が多く名寄と10度以上も差があります。柏の宮公園にある田んぼが区内唯一の稲作地のため、田んぼを管理する柏の宮公園自然の会さんに質問しました。柏の宮公園ではコシヒカリを完全に手作業・無農薬で育てているそうです。米づくりの工夫として冬の間も田んぼの水を張ることで、生き物たちが一年を通して生きられるようにしています。また、収穫したお米は協力してくれた人に食べてもらっており、米ぬかなどは捨てずに米作りに活用しているそうです。

名寄と杉並は気候などの違いがありますが、おいしいお米を育てるためにそれぞれ努力していることがわかりました。名寄の農家さんたちが寒くて苗が育ちにくい地域でもお客さんに喜んでもらえるように工夫していたのを見習って、僕もお客さんにより喜んでもらえるように将来は農家としてがんばりたいです。



学校名	三谷小学校	5 年	氏名	石橋 遥香
-----	-------	-----	----	-------

マイナスの世界で知った寒さとペンギン

私は自然体験交流で北海道に行き、マイナスの寒さを体感しました。名寄市は気温がマイナスになると事前学習で知っていたので、寒い中で過ごすのは大変そうだと思っていました。

行ってみると空気は冷たかったですが、スキーウェアやネックウォーマー、スノーブーツなどを身につけていたので、思っていたより寒く感じませんでした。服を工夫すると寒さの感じ方が変わり、外でも活動できることを学びました。

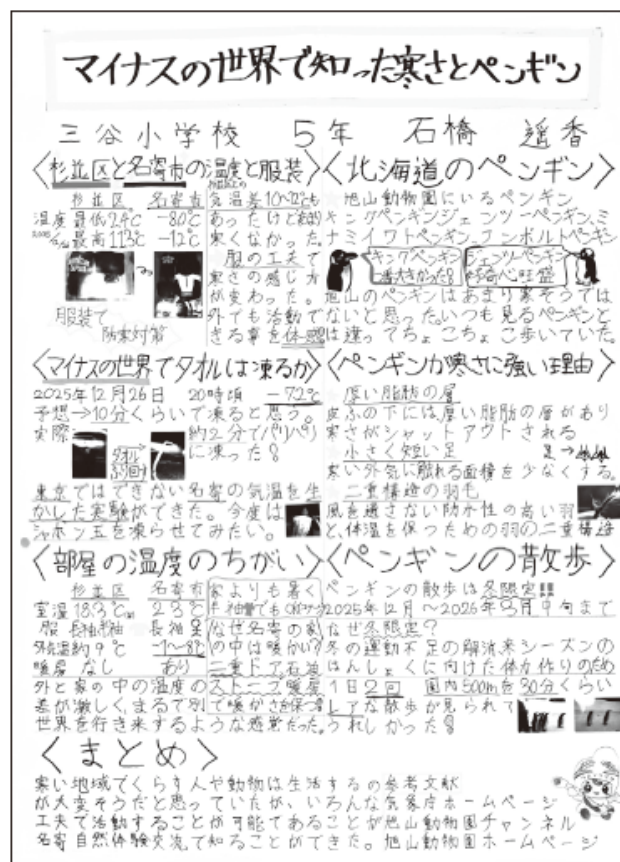
夜にはぬらしたタオルをふり回して凍らせる実験をしました。東京ではできない名寄の気温を生かした実験ができました。また行く機会があればシャボン玉を凍らせてみたり、他の実験をしてみたいです。

泊まったコテージの中はとても暖かく、半そででも過ごせそうなくらいでした。外と家の中の温度差が激しく、まるで別世界を行き来するような感覚でした。二重ドアや石油ストーブ、エアコンで室内の暖かさを保つ工夫がされていることを実感しました。

旭山動物園では雪の上を歩くペンギンの散歩を見ました。期間限定の散歩で冬の運動不足の解消、

体力作りのためだそうですが可愛いペンギン達はまったく寒そうに見えませんでした。調べてみると、羽毛がたくさん生えていて、体の中に脂肪があり、寒さから身を守っていることがわかりました。人々がたくさん服を着て寒さをしのぐみたいに、体のつくりで寒さから身を守っているのだと思いました。寒い中で暮らすためにペンギンも人と同じようにさまざまな工夫があることがわかりました。動物園の中も、すべらないように坂がゆるやかになっているなど、雪国の動物園ならではの工夫がありました。

寒い地域で暮らす人や動物は生活するのが大変そうだと思っていましたが、実際に行ってみて様々な工夫で活動することが可能であることが名寄自然体験交流で知ることができました。



学校名	高井戸第二小学校	6 年	氏名	片岡 啓
-----	----------	-----	----	------

名寄の雪遊びと開拓

僕が名寄の交流授業で一番楽しかった事は雪合戦です。杉並と名寄の子14人で2チームに分かれました。谷のような場所で道を挟んで陣地を作り向かい合わせで、雪玉やソリを使って雪をかけあったりして盛り上がりました。僕達が遊んだ名寄の土地について調べてみたいと思いました。

名寄の雪は降雪量が多く粒が小さいためサラサラでフワフワしています。そのため雪玉を作るのも一苦勞でした。杉並の雪は降雪量が少なくベチャベチャした雪質で気温もそこまで低くないのですぐに溶けます。

名寄と杉並の気候は大きく違いがあります。冬の最低気温で比べると、杉並は-2.5度、名寄は-35度と気温差は30度以上あり、寒く厳しい気候です。僕が行った当日の夜は濡れたタオルが凍るほどの寒さでした。

僕が雪遊びをした名客はどのようにしてできたのでしょうか。明治に入り、二つの理由から開拓が進められました。一つ目はロシアの脅威から日本を守るためです。（博物館の職員さんは「東京駅を作るよりも先に着手しなくてはいけない事だった」と話していました。）二つ目は北海道にある豊富な資源を使って国を豊かにするためです。

平民移住の方は一人で3～5年で東京ドーム一個分よりも広い土地を開墾して一人前だそうです。

開墾は原始林との闘いです。大きな原始林と熊笹などの植物を取り除く事から始まります。マサカリやノコギリ、クワで木を掘り起こし、支給されたクワはすぐに刃がボロボロになったそうです。

開墾が成功するまでに水害や冷害にみまわれて逃げる人もいました。名寄を流れる天塩川でも度重なる大きな洪水があったようです。

僕が調べて感じたのは、「地獄のマイクラフトだ!」と思った事です。開拓以前にサバイバルだけでも想像を絶するほどの過酷さ、苦勞の歴史が北海道の発展にありました。雪合戦を楽しんだり、ソフト大福を美味しく食べることができたのは、先人のみなさんのおかげなのだ、この小学生名寄自然体験交流事業に参加して感じるこれができました。

名寄の雪遊びと開拓

高井戸第二片岡啓

★名寄での雪遊び



名寄と杉並の子供たち14名で2チームに分かれて雪合戦をしました。雪みたくな場所でも向かい合って、雪玉を放たしソリを使って雪をかけあって、とても盛り上がりました！

★名寄と杉並の雪の違い

- ★名寄
 - ・降雪量が多く雪が小さい。
 - ・サササでフワフワしている雪質。そのため雪玉を作るのも一苦労！
- ★杉並
 - ・降雪量が少ない。名寄よりも大きい雪。
 - ・ベチャベチャした雪質。
 - ・気温があまり低くないのですぐに溶ける。

★開拓の目的

どうやって今の名寄ができたのかな？

- ・ロシアの脅威から日本を守るため。
- ・北海道にある豊富な資源を使って国を豊かにするため。

★開拓の苦勞（平岡移民の場合）

- ・一人で3～5年で東京ドーム一個分よりも広い土地を開墾して一人前！
- ・開墾は原始林との闘い。
- ・大きな原始林と熊などの植物を取り除く。
- ・マサカリやノコギリ、クワで木を掘り起こし、支給されたクワはすぐに刃がボロボロに！

★気候の違い

- ★冬の最低気温記録で比べてみよう！
 - ・杉並 -2.5度
 - ・名寄は-35度！！

名寄と杉並の気温差は30度以上！
名寄の夜はカップラーメンが溶けたタレが凍るほどの寒さでした！

想像を絶する
マインクラフトだ！
サバイバル！！



出生生きのごころたりしきまきふりふり

学校名	久我山小学校	5 年	氏名	田上 陽菜乃
-----	--------	-----	----	--------

雪国名寄と東京のちがい

「痛い！」旭川空港に着いて私が最初に感じたことです。空気が冷たいのを通りこして肌にささるような寒さ。東京では決して味わえないしょうげきでした。この2か月間、ずっと本などで名寄について調べてみましたが、やはり現地の空気は違います。ようやくスタートラインに立てた嬉しさで、これからの3日間が本当に楽しみになりました。

そんな驚きから始まった私の視点で、名寄と東京にはどのような違いがあるのか4つお伝えします。

1つ目は、名寄と東京の冬の特徴です。名寄は先程も述べたように寒さが厳しくなっています。そして、東京に帰った時ずいじと感じました。それぐらいの気温の差があることがよく分かりました。名寄の雪は、雪質日本一と言われており、ふわふわパウダースノーになっていました。雪玉を作るには圧力をかけたりしないとできませんでした。雪が多く積る時で60cmも積りました。

2つ目は服装の違いです。表でみると違いがよく分かります。名寄は、スノーブーツがないと歩くこともできません。東京はスニーカーと上着一枚あれば十分です。私は手袋・マフラー・ニット帽もいません。しかし、名寄は全部ないと動けないくらい寒かったです。実際、何も着ないでトイレを外まで探したら3分ぐらひは寒くて動けなかったのです。すぐに室内に戻りました。この時、東京と名寄の気温差の違いをよく実感しました。

3つ目は、遊び方の違いについてです。名寄は体育にカーリング・スキー・雪遊びなどをするそうです。東京は縄跳び・おにごっこ・跳び箱などをします。私は、初めてカーリングをしました。重かったけどコツをつかめました。それでは何回か雪に落ちたけど楽しかったです。

4 つ目は、初日に行った「名寄の気候で果物は凍るのか」という実験についてです。果物の種類は、みかん・バナナ・りんごです。きたすばるで果物を凍らせてもらいました。私の予想は全て凍ると思いました。みかんは、皮まで氷がついていて、実はシャリシャリしてお菓子の様な甘味があって美味しかったです。バナナにも皮まで氷がついていました。実はしっとり感があり、甘味がありました。りんごは、皮は冷たかったけど凍ってはいませんでした。

結果は、みかん・バナナ・りんごの順で凍っていました。全て凍るわけではないことが分かり、凍らすほど甘くなることも分かりました。

私は名寄に行つて、とても貴重な経験をさせていただき、かけがえのない思い出ができました。今回、寄付して下さった皆様、サポートして下さった先生方、名寄の皆様、本当にありがとうございました。

雪国名寄と東京のちがひ

名寄での遊び方

- ・ スキー
- ・ 雪遊び
- ・ カラリング
- ・ スノーシュー
- ・ レッキング

など

東京での遊び方

- ・ おにごっこ
- ・ 縄跳び
- ・ サッカー
- ・ 野球

など

名寄が東京より寒いのは、北にあるからだと私はえます。理由は、北海道の近くには北極があり、そこからの強い風が名寄に吹いているのではないかと考えます。

名寄での過ごし方

- ・ 平均気温がマイナス5℃
- ・ 雪がふる日は年々12月～15日程度の雪がふる
- ・ 1年の気温の差が60℃にええる

東京での過ごし方

- ・ 平均気温が5℃程度
- ・ 雪がふる日は年々平均で5日以下
- ・ 1年の気温の差は約2℃

名寄が東京より寒いのは、北にあるからだと私はえます。理由は、北海道の近くには北極があり、そこからの強い風が名寄に吹いているのではないかと考えます。

名寄での過ごし方

- ・ スキーウェア
- ・ 手袋
- ・ ニット帽子
- ・ 上着
- ・ ブーツ
- ・ マフラー
- ・ スノーブーツ

東京での過ごし方

- ・ 上着
- ・ 手袋
- ・ スニーカー

名寄が東京より寒いのは、北にあるからだと私はえます。理由は、北海道の近くには北極があり、そこからの強い風が名寄に吹いているのではないかと考えます。

名寄での過ごし方

- ・ スキーウェア
- ・ 手袋
- ・ ニット帽子
- ・ 上着
- ・ ブーツ
- ・ マフラー
- ・ スノーブーツ

東京での過ごし方

- ・ 上着
- ・ 手袋
- ・ スニーカー

学校名	桃井第二小学校	5 年	氏名	山本 壮一朗
-----	---------	-----	----	--------

最高に楽しいカーリングと最高に美味しい名寄メシ

僕が名寄で出会ったカーリングは最高に楽しく、名寄メシも最高に美味しかったです。カーリングは、氷の上でストーン（石）をすべらせて投げるスポーツです。ねらう場所は「ハウス」という円で、相手と投げ合って中心の近くに止めた方が点になります。会場のサンビラー交流館は床が氷になっていてとても寒く、大きさも小学校の体育館より大きくてびっくりしました。

最初に、まず氷の上で立つ練習をしました。氷の上で滑って移動できるように片方の靴にゴムカバーを巻いたのですが、重心の移動が難しく、最初は何回も転びました。練習したら10分くらいで立て

るようになりました。

次はストーンを投げる練習です。40メートル先のハウスをねらい、重さ20キロのストーンを投げました。しゃがんで後ろに引いてから前に押し出して投げます。ストーンは重いのに氷の上ではよくすべり、遠くまで進みました。力加減がとても難しく、強いとハウスを通りこして、弱いと手前で止まってしまいました。姿勢を立ててよく考えないと上手くいかないで面白かったです。

最後は先生も入って4対4で試合をしました。ストーンの勢いが足りないときはモップでこすって進ませました。僕は毎回スピードを見ながらモップをかけて調節したので、狙ったところに投げられて勝てました。投げるたびにどこを狙うかチームで考えながらやるのがとても面白いと思いました。

名寄メシも忘れられません。豚汁は東京では「とん汁」なのに名寄では「ぶた汁」と言うことが面白かったです。煮こみジンギスカンは名寄名物のおもち入りで、東京の食べ方とちがってびっくりしました。

今回、名寄と一緒に来てくれた先生達や、楽しく遊んでくれた班員のみなさん、本当にありがとうございました。僕はこの体験で名寄のことが大好きになりました。次は家族と行って名寄のいいところを伝えたいです。

耳の裏に留子をはめた
夜は光が眩しい

中絶とまじりの暮らしでした

最高に楽しいカーリング
と
最高に美味しい名寄メシ

帆井第二小学校
山本壮一郎

2. 体験したこと

- サンピラニア交流館
(体育館より大きい!!)
- 氷の上で立つ練習
- ストーンを投げる練習
- 4人対4人で試合



1. カーリングのルール

- 氷の上でストーン(石)を滑らせて投げる
- ねらう場所はハウス(的みたいな円)
- できるだけストーンを中心に近づけると点になる



4. ストーンを投げる練習

- 40メートル先のハウスに置き20秒のストーンを投げる
- 投げるときは床りながら後ろに引いてから前に投げる
- ストーンはとても重かったけど、氷の上だから滑っていた
- 40メートル先のので、力加減が難しく、ハウスを超えてしまった



3. 氷の上で立つ練習

- 氷の上は滑るので、まず立つのが難しかった
- 氷の上で滑って移動できるような片方の靴に足を寄せていた
- 最初は転んだけど、何回かやると慣れてくる
- 慣れるのに10分くらいかかった



6. 試合での工夫・感想

- 毎回、投げた石の勢いを見ながらモップをかけたので滑ることができた
- カーリングの試合で勝つには、速度を落とすながら、道を使って相手のストーンを叩くことが大事
- 慣れるまで大変だけど、勝負に楽しんでいる!!



5. 4対4で試合

- 先生も入って、4対4で試合
- 姿勢を立たせて投げないとストーンが前に飛ばない
- ストーンの勢いが足りなかったときはモップで滑って滑らせる
- 勢いを見極めてスピードの調節をするのが難しかった



8. 名寄メシ②: 煮込みジンギスカン

- 名寄のジンギスカンはお餅が入っている
- 煮込みジンギスカン鍋
- 名寄はお餅の材料とあるもち米の日本一産地
- 同じ料理でも札幌の仕方に違いがあるのは面白かった
- 煮込みジンギスカン、最高に美味しかった!!



7. 名寄メシ①: 標汁

- 東京では「とん汁」、名寄では「ふた汁」と呼ぶ
- 豚は「とん」とも「ふた」とも読むのでどちらも正解だが、同じものでも風味が違うと思う方が違うことが面白い!!
- 濃い味で美味しく、七味を入れると味が変わって最高!!



学校名	早稲田実業学校初等部	5年	氏名	飯田 悠真
-----	------------	----	----	-------

アイヌ民族の動植物との共生

僕は、北国博物館へ行き、名寄のアイヌ民族の暮らしについて調べました。そこで学んだ事と感じた事を、三つのポイントにまとめました。

一つ目は、名寄の自然環境についてです。博物館の方から、中国のアムール川の淡水がオホーツク海で流氷になり、それが運んで来る寒気が盆地である名寄にこもるため寒くなるのだと教わりました。雪が多いのは、日本海からの温った風が北見山地にぶつかるとからです。僕はマイナス10度の寒さが辛かったのですが、現地の方が「まだ暖かい」と言っていたのを聞き、この環境で生きる人たちのたくましさを感じました。同時に、地球温暖化でこの大切な流氷が減ってしまわないか心配になりました。

二つ目は、アイヌ民族の信仰と知恵についてです。アイヌの人達はあらゆる物に魂が宿ると考え、それらを「カムイ（神）」として敬っていました。魂は別の世界へ行っても、また違う姿で戻って来ると信じられていたそうです。特に面白いと思ったのは、魂は手先が器用ではないと考えられていた事です。だから人間が代わりに木を削って作った「イナウ」を贈ると、カムイはとても喜ぶのだと教わりました。また、展示されていた鮭の皮の靴にも驚きました。命を最後の一ヶ所まで無駄にせず、大切に使う工夫

から、アイヌの人達が自然と共生していた事がよく分かりました。

三つ目は、名寄の歴史です。1857年に松浦武四郎がアイヌの人の暮らしや信仰を学び、1900年には道路が開通して本州からの入植者が増えました。今の名寄の発展があるのは、アイヌの文化と、厳しい自然に立ち向かった先人達の努力があったからなのだと感じました。

今回の見学を通して、アイヌの人達が自然をただ利用するのではなく、敬う事で共生していた事が印象的でした。この考え方は、僕の学校の校訓である「三敬主義（他を敬し、己を敬し、事物を敬す）」に似ていると思いました。鮭の皮の靴のような工夫には、まさに「事物を敬す」という感謝の心が詰まっています。僕もアイヌ民族の知恵に学び、学校でも家でも、三敬主義の心を大切にして生活していきたいです。

アイヌ民族の動植物との共生

早稲田実業学校初等部 5年 飯田悠真

【名寄の気候の特ちょう】 【アイヌ民族の暮らし】

寒さ 中国のアムール川の淡水がオホーツク海に流れる。淡水は海水より凍りやすく流氷になり、その寒気が名寄盆地に留まるため。

信仰 死者の魂が全ての物に宿ると考えていた。人間が生きていたために欠かさない動植物や、火や水など全てをカムイ（神）として敬った。

衣 服や靴を熊や鹿の毛皮、魚の皮などで作っていた。熊や鹿、魚などを食べていた。ハンディなど骨組を作り、壁や屋根はアシで葺いた。中央には炉があり正面には神窓があった。

食 日本海から吹く温った風が北見山地にぶつかるため、名寄はアイヌのオホーツク海に面するところ。気候は、冬は寒い。

出典 図説「アイヌの生活」

考察 現地の人は「10℃で暖かい」と言っていた。地球温暖化で流氷が減っているのか？

考察 アイヌ民族は、寒い地域で生きるために動植物や道具をカムイとして敬い守っていた。動物を大切に共生していた。

【名寄の歴史】

1857年 松浦武四郎がアイヌ民族の生活を学ぶに来る

1861年 開拓使が設けられ、北海道、樺太、千島が開拓される

1900年 名寄の地川間の道路の開通により山形からの入植者が来て、畑作や材木業、植竹が盛んになった

考察 本州から来た和人はアイヌ民族の生活に学び、田畑を耕して今の名寄の姿に近づいた。

学校名	松ノ木小学校	6年	氏名	大場 千歳
-----	--------	----	----	-------

名寄市の雪と冬の動物

僕は名寄市でいろいろな体験をしました。東京では感じる事の出来ない寒さだったり、東京とは違うふわふわした雪が見られました。他にも寒い地域でしか見られないエスキウサギがいたり、ヒグマなども動物園で見られました。そこで気象、特に雪と動物に興味を持ったため、調べてみました。

名寄市の雪がとてもサラサラしていたり、ふわふわしている理由は、名寄市の「地形」「気温」と「湿度」にありました。

まず地形と温度についてです。西から吹く湿った風は1つ目の山地で雪を降らせた後、乾燥した風となって2つ目の山地にぶつかり、名寄に乾いた雪を降らせます。次に気温です。名寄市や旭川市では、地表の熱が奪われる「放射冷却」という現象で気温が下がり、冬になると気温が約-35度まで下がることもあります。

これらの理由により名寄市はとても寒く、水分の少ない雪のため、降ってくる途中で雪が溶けることはありません。しかも寒くて雪の結晶がそのままの形で降ってくるので、音が「シャキシャキ」というほどです。

このような厳しい寒さと雪の中で暮らす旭山動物園で見られたエスキウサギやタヌキなどの小動物は、名寄市の寒さから身を守るためになるべく動かないようにしていたり、暖を取るためほとんどは掘った穴の中で暮らしていました。実は雪は断熱性が高く、穴の中は外に比べて暖かいそうです。

エスキウサギは学校で飼っていたウサギと違い、寒さや天敵から身を守るために毛が白く、毛の量は多くなっていました。また、エスキウサギは天敵から逃げるため、雪の上でも早く走れるように脚が大きく発達し、最高速度は時速70km以上で国内の陸上の哺乳類の中で一番速いです！一方、体格に比べて耳は小さく、これは耳からの放熱を防ぐためだと言われています。同じウサギでも寒い地域に合わせた進化をしていて、エスキウサギの長い進化の工程を体感できました。

冬の北海道名寄市に行き実際に体験することで名寄市の人とのつながり、北海道の歴史を感じることができました。自然が豊かな名寄市では、名寄市ならではの冬の動物が見られました。ほかにもアイヌ文化やもち米など名寄市のいいところがたくさんありました。名寄市の体験をきっかけにまた名寄に行ったり、まだ行ったことのない場所でも新しいことを体験したいです！

名寄市の雪と冬の動物

松ノ木小学校 6年 大場 千歳

名寄市の雪はなぜこんなに多いの？

地形 名寄市は「名寄盆地」にあり、天候山地で北見山地に囲まれている。

気温 名寄市は「放射冷却」という現象で冬の夜に冷たさが下がる。

湿度 西から吹く湿った風が1つ目の山地で雪を降らせた後、乾燥した風となって2つ目の山地にぶつかり、名寄に乾いた雪を降らせます。

毛 寒さや天敵から身を守るために毛が白く、毛の量は多くなっていました。

耳 耳が小さく、これは耳からの放熱を防ぐためだと言われています。

脚 早く走れるように脚が大きく発達し、最高速度は時速70km以上で国内の陸上の哺乳類の中で一番速いです。

穴 雪の中で暮らす動物は、雪の下に穴を掘って暖を取るために穴を掘ります。

雪 雪は断熱性が高く、穴の中は外に比べて暖かいそうです。

雪 雪は断熱性が高く、穴の中は外に比べて暖かいそうです。

学校名	高井戸第二小学校	5 年	氏名	瀧澤 みり恵
-----	----------	-----	----	--------

ひこうきに乘れば別世界

私は、名寄自然体験交流事業に参加するにあたり、日本トップクラスの雪と星空を体験できる事を楽しみに出発しました。

空港からバスで名寄へ向かう途中の車窓は田んぼが多く、のどかな町だなという印象でした。夜は明かりが少なく星を見るのに最適な環境だなと思いました。

楽しみにしていた星空ですが、あいにく天気が悪く見ることができませんでしたが、一度だけ晴れ間があり、そのとき見た月はとても大きくきれいだったので、日本で2番目に大きいピリカ望遠鏡で天体を見たかったです。

もう1つ楽しみにしていた雪は3日間ずっと降っていました。私の知っている雪は手でぎゅっと固めるとすぐに雪玉になるのに、名寄の雪はサラサラすぎてどんなに力を入れてもすぐに崩れてしまいました。不思議に思っているが北国博物館の方から、「名寄は天塩山地と北見山地に囲まれた盆地で空気が冷たく、水分がない粉のように軽い雪なんだよ」と聞いたので、水分を入れたら固まると考え、素手でぎゅっとすると雪玉を作ることができました。しかし、素手はものすごく冷たいので雪合戦はほほ粉の状態ではなげ合っていました。あと、つもった雪の上に足が入るとどんどんずんでいくのでこわかったです。

この三日間の体験を通して、同じ日本でも地形や位置がちがうと「雪」という同じ言葉でもベチャベチャだったりサラサラだったりとまったくちがうものだとなりました。また名寄の方たちのお話を聞いて、地元の特色を大切にしていることを感じました。

私にとって名寄は別世界でした。「寒さと広さ」を生かしたものにふれ、自然の恵みの大切さと守っていく力も大切だと感じました。この交流事業は、今自分が見ているものが全てではない、気候や風土の違いを身をもって体験でき、教えてもらいました。この経験を生かしていきたいと思えます。関わってくださった皆さんへ感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



学校名	桃井第四小学校	6 年	氏名	前田 莉子
-----	---------	-----	----	-------

名寄の冬を生きぬく動物たち

私は冬の北海道に行くのは初めてでした。旭川空港についたとき、名寄の寒さは今までに経験したことがないほど風が冷たく、東京との違いにおどろきました。

北国博物館では「エゾリス」に出会いました。大きさは両手ほどで、とてもフワフワした毛でおおわれていました。私はあんな小さな体でどのようにしてこの寒さをしのいでいるのかと不思議に思いました。そこで名寄の寒さを生きぬく動物たちの工夫を調べました。

まず私が出会った「エゾリス」です。エゾリスは冬になると耳にフワフワな毛をはやしします。耳の周りをフワフワな毛でおおうことで寒さに耐えているのです。

次に「エゾユキウサギ」です。エゾユキウサギは、夏は茶色に、冬は白色にと、季節によって毛の色が変化することを知りました。杉並区に帰り寒さ対策について調べてみると、エゾユキウサギは他のウサギに比べて体格のわりに耳が小さく、そうすることで熱を逃げにくくしています。

他の小動物では、「エゾクロテン」というイタチ科の動物は、体中を非常に高い密度の毛でおおうこと

で、優れた断熱材の役割となり、体温を保っているのです。

次に大型動物から「エゾジカ」です。エゾジカは本州に生息しているシカよりも大きく、その大きさは約2倍です。体が大きいことで熱の放散が少ないため、体温を保持することができるのです。

最後に「ヒグマ」です。ヒグマは基本的に冬眠しますが、秋に大量の栄養を摂取します。例えば鮭や木の実です。そして皮下脂肪を極限までたくわえ、この分厚い脂肪が冬眠中のエネルギー源になるのです。

このように名寄に生息する動物たちは、様々な方法で寒さから自分を守っているのです。私は名寄での体験や杉並区に帰ってきて調べたことを通して、同じ雪国に住む動物でも、それぞれ生きぬく工夫は違うことに驚き、さらに興味深くなりました。名寄で生きぬく動物たちのことを知れてよかったです。ありがとうございました。



学校名	荻窪小学校	5年	氏名	渡辺 楓大
-----	-------	----	----	-------

アイヌ民族の狩り

ぼくがこの題名にした理由は名寄市の北国博物館でアイヌ民族のクマ狩りの展示を見て、アイヌ民族の狩りのしかたについて興味を持ったからです。

まず、アイヌ民族のワナについて調べました。アイヌ民族が使っているワナは「アマッポ」と言うワナです。「アマッポ」はけもの道に仕かけ、毒をぬった矢を発射します。対象動物はヒグマやシカです。毒はトリカブトという植物の根をすりつぶした物です。

次にアイヌ民族が狩りをする時につれていくアイヌの犬について調べました。アイヌの犬は寒い冬の北海道に耐えられるように寒さの耐久性があります。それにキツネやシカやクマなどのこんせきをみつけると言う、狩りにとってもっとも重要なことをアイヌの犬はできるのです。

ほかに調べたことはアイヌ民族のサケ漁について調べました。サケはアイヌ民族にとって主食でもあり、捨てる所がない魚です。ちなみにサケは「神の魚」と言われています。アイヌ民族の漁具は「マレク」と言うサケを取る代表的な漁具のひとつです。鉄の先端部分にサケがささるときには「モリ」の役割をし、引き上げる時には「かざ」の役割をします。

最後にクマ狩りについて調べました。主に春にクマ狩りをやります。冬眠中に穴の出入口をじょうぶな木でふさぎ、毒矢を射る方法です。これで効率よくクマを狩れます。

このようにアイヌ民族は狩りの工夫をし、効率よく食べ物を手に入れていました。ぼくはアイヌ民族のように色々な事を、工夫したらよりよい暮らしができるのかなど、思いました。

アイヌ民族の狩り

狩りの方法

荻窪小学校
5年 渡辺 楓大

＜春のクマ狩り＞

- 冬眠中に穴の出入口を木でふさぎ毒矢を射る
- 毒はトリカブトの根をすりつぶした物

＜アイヌ民族のワナ＞

- 「アマッポ」と言うワナ
- けもの道に仕かけ、毒をぬ。たてしかにして発射する
- 対象動物はヒグマやシカ

＜アイヌの犬＞

- 寒さの耐久性がある
- キツネやシカやクマなどのこんせきをみつかる

＜アイヌ民族のサケ漁＞

- サケはアイヌ民族にとって、大事な食べ物とて食うが、
- 「神の魚」と言われている
- 「マレク」というサケを取るアイヌの代表的な漁具のひとつ
- 鉄の先端部分にサケがささるときには「モリ」の役割をし、引き上げる時には「かざ」の役割をします

つかまえた動物の使い道

＜アイヌ民族の食事＞

- 熊と動物は主に焼いたり、汁ものにして食べた
- サケは「ハイベ」と言う漬。たてしかにして食べた

＜身につける物＞

- クマ、シカ、キツネなどの皮を衣服にしたり
- サケの皮は衣服やくつにも使われた
- シカの角はそうし、く品や実用品として加工された

＜その他＞

- クマシカの皮は交易品になり、利用された
- シカの皮は湯ぶくろなどに使われた
- シカの角は、熊の尻尾の毛物に使用された
- シカの角は、弓の弦や矢に使用された

＜出典＞

- 北国博物館
- 北海道文化ポータルサイト AKARENGA
- 文化遺産オンライン
- 公益社団法人日本民俗学会
- 宮内庁省アソシエイト事務局

一歩、踏み出したその先にあるもの

高井戸第四小学校 校長 本橋 忠旗

今年度も多くの皆様のご協力により、杉並区名寄自然体験交流事業を無事に終えることができました。今回は、区立小学校 19 校、私立 1 校から抽選によって選ばれた 25 名の児童が集いました。

11 月の事前学習会で参加した児童と初めて会った時の驚きは今でもよく覚えています。目的意識をもった児童の言動はとて前向きで、その課題意識の高さに感心しました。その意識の高さは、現地での自立した行動にもつながり、事前学習で初めて顔を合わせた時には、緊張して言葉少な目立った児童も、回数を重ねるたびに交わす言葉が増え、仲を深め、6 年生が発揮するリーダーシップは力強いものになっていきました。

2 泊 3 日の体験交流活動では、たくさんの貴重な経験を積むことができました。天文台では、国内で 2 番目に大きい望遠鏡を見せてもらったり、スノーシューをはいて森の中でオリエンテーリングを行ったり、そり遊び、カーリング体験もしたりしました。名寄西小学校の児童とも交流させていただきました。

そして、何よりも意欲的に取り組んだことはマイナス 10 度の世界で行う実験でした。タオルを振って「立つタオル」に挑戦する児童。霧吹きで、「瞬間人工雪」に挑戦する児童。シャボン玉をつくって、「手のひらに乗せられるシャボン玉」に挑戦する児童。ジュースを凍らせて「シャーベットづくり」に挑戦する児童。そこには様々な「挑戦」があり、一人一人の課題意識の高さと意欲的な姿を見ることができました。

自分の頭で考えて、自分自身を成長させるためには、「自分の中に新しい情報や知識を取り込むことが大切」という人がいます。その方法は、「本・旅・人」だそうです。「本」は、歴史・文学・思想・科学など人間の知の結晶を学び、「旅（現場）」は、そこでしか分からない真実について身をもって体験することで理解のレベルを上げ、「人との出会い」は、その交流から新しいアイデアが生まれやすくなると示唆しています。

そういった意味で、現地での活動はインターネットや本で分からない、「自分で考え、挑戦し、やってみる」という貴重な機会となったことは間違いありません。まさに、「初めてのことで現地に行ってみる」という、自ら一歩踏み出してみたことが、自分自身を成長させる貴重な時間の獲得へとつながりました。

本報告書は、児童の学びを集約したものになります。新しい知識や自分が感じたことを自分の言葉で書き表した貴重な内容となっています。多くの方にご高覧いただきたく存じます。今後も、こうした豊かな体験学習の機会が充実し、広く社会に興味関心をもちよりよい社会をつくってほしいとする児童の学びが深まることを願います。

結びに、本事業の趣旨をご理解・ご協力いただき杉並区次世代育成基金に賛同いただいた皆様をはじめ、名寄市教育員会、名寄西小学校の児童・保護者の皆様、現地関係者の皆様、本事業を所管する杉並区教育委員会生涯学習推進課、参加した児童の保護者の皆様に厚く感謝申し上げます。

保護者の感想

*もともと都会よりも地方が好きだと言っていたが、今回の体験を通じて、やっぱり本当に好きだなと本人も感じたようです。帰ってきて感想を聞く中で将来は地方の人のために貢献する仕事を目指そうかという話を親子でしました。こうした社会体験を通じて、自分の好きを軸に将来のイメージを抱けたのは大きな財産になったと感じています。

また、親元を離れて1人で飛行機に乗り、泊まったりといった経験も本人の自信につながっており、自己肯定感の醸成につながったと思います。

さらには、今回他校や名寄の初めて会う友達と仲良くでき、コミュニケーションの面でも自信になったようで本当にありがたいと思っています。

*雪がふわふわだったこと、ジンギスカンが美味しかったこと、カーリングが難しかったこと、北国博物館でたくさん展示を見たことなど、目を輝かせて話をしてくれ、身体全体で、名寄を感じてきたことが伝わってきました。名寄ならではの体験がもたらしたプログラムだと思っています。

*初めてかかわる仲間たちと一緒に、初めて行く名寄の地で共に過ごせたことは、わが子にとって非常に貴重な体験だったと同時に、本人の自信にもなったようです。

事前学習会で交流を重ねたことで、出発前からモチベーションが高まっていた。担当の先生方が意欲を高め、十分に心をほぐしてくださったからだと思います。

名寄から帰り、年末年始の帰省先で曾祖母や祖母にこの三日間の学びを一生懸命に話していました。その様子を見て、いかに有意義な時間を過ごしてきたかが伝わってきました。

令和7年度名寄市・杉並区交流事業

事業名	概要	時期
東京高円寺阿波おどり写真展 〔名寄市〕	名寄市で東京高円寺阿波おどりを紹介する写真展を行いました。	令和7年5月29日 ～6月16日
アスパラまつり 〔杉並区〕	杉並区役所でアスパラガスや大福等の特産品を販売しました。	令和7年6月4日 ～6日
白樺まつり 〔名寄市〕	東京高円寺阿波おどり親善訪問おどり団(33名)と区代表団(4名)が名寄市を訪問し、まつり会場で通りを披露しました。	令和7年6月14日 ～15日
交流自治体シンポジウム 〔名寄市〕	杉並区交流自治体が名寄市に集まってシンポジウムを実施しました。さらに27日にはこの日開催の名寄市花火大会会場にて、杉並区を含む各自治体のPRイベントを実施しました。	令和7年7月27日 ～28日
杉並区・名寄市子ども交流会 〔名寄市・杉並区〕	夏休みに、両自治体の小学4年生から6年生が、相互に訪問し交流しました。	名寄側 令和7年 7月28日～31日 杉並側 令和7年 8月5日～8日
東京高円寺阿波おどりへの参加 〔杉並区〕	東京高円寺阿波おどり本大会に名寄市のおどり団「風舞連」が参加しました。	令和7年8月23日
東京高円寺阿波おどり 名寄市民ツアー 〔杉並区〕	東京高円寺阿波おどりを観覧する名寄市民向けのツアーを実施しました。	令和7年8月23日 ～24日
星空観望会(秋) 〔杉並区〕	杉並区に名寄市のなよろ市立天文台きたすばるの職員の方が来て星空観望会を実施しました。	令和7年11月8日 ～10日
すぎなみフェスタ 〔杉並区〕	交流自治体合同物産展に出展し、なよろ煮込みジンギスカンの販売や大福等の物産販売を行いました。また、会場内では名寄市の市立天文台きたすばるの移動式天文台車がやってきて、太陽観測会も行われました。	令和7年11月8日 ～9日
観光以上移住未満イベント 〔杉並区〕	高円寺にて、餅つき体験・物産展・観光相談が一体となったイベントを実施しました。	令和7年12月5日
多文化共生もちつき体験会 〔杉並区〕	杉並区にて、外国人を対象とした多文化共生に向けたイベントの一環で名寄市の餅つき体験イベントを実施しました。	令和7年12月6日
冬のなよろ写真展 〔杉並区〕	名寄市にて作成している冬カレンダーの掲載作品および応募作品の一部を杉並区役所にて展示しました。	令和7年12月22日 ～26日
星空観望会(冬) 〔杉並区〕	杉並区で名寄市のなよろ市立天文台きたすばるの移動式天文台車がやってきて夜間の観望会をはじめ天文講座・太陽観測会などを実施しました。	令和8年2月21日 ～23日
座・高円寺カフェでの 名寄市野菜を使った交流 〔名寄市・杉並区〕	名寄市の小中学生が栽培した野菜を、座・高円寺のカフェ・アンリファブルで食材として利用したメニューを販売しました。また、名寄市の小中学生の授業の一環としてカフェのシェフと交流するオンライン授業を実施しました。	通年

令和7年度 小学生名寄自然体験交流事業報告書

令和8年3月発行

編集・発行 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
☎ 03-3312-2111 (代表)

☆杉並区のホームページでご覧になれます。https://www.city.suginami.tokyo.jp

登録印刷物番号

07-0109

北海道名寄市のご案内

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらし、もち米やアスパラガス等が国内屈指の収穫量を誇る、農業を基幹産業とする都市です。夏と冬の寒暖差が最大で60℃にもなり、日本最大級の望遠鏡を持つ市立天文台「きたすばる」や、雪質日本一ともいわれるスキー場などがあります。

杉並区と名寄市の交流は、平成元年7月に旧風連町と交流自治体協定を結んだことに始まります。その後住民同士の幅広い交流が続いてきましたが、平成18年3月には旧風連町と名寄市とが合併し、新しい名寄市としてスタートを切りました。杉並区と名寄市は、これまで築いてきた両自治体の関係をさらに発展させていくため、平成18年6月に協定を再締結し、より一層の交流を深めています。



名寄市のデータ

面積 535.20 km²
(杉並区 34.06 km²)
人口 24,135 人
世帯数 13,477 世帯
(令和8年1月末現在)



北国の春を彩る芝桜



夏のひまわり畑



生産量日本一を誇るもち米の稲穂



なよろ市立天文台 きたすばる



名寄市
観光キャラクター
「なよろ」

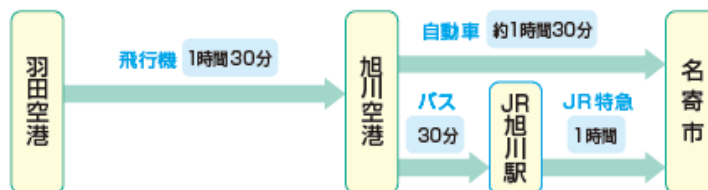


雪質日本一!ピヤシリスキー場



神秘的なサンピラー現象

名寄市へのアクセス



名寄市公式サイト



「小学生名寄自然体験交流事業」は 杉並区次世代育成基金を活用しています

杉並区次世代育成基金は、次代を担う子どもたちが、自然・文化・スポーツなどさまざまな分野における体験・交流事業への参加を通して、視野を広げ、将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援するための杉並区独自の仕組みです。

平成24年度の創設より、寄附者の皆さまからの継続的なご支援をいただくことで、多くの子どもたちに貴重な体験を提供することができています。寄附者の思いが基金を通じて子どもに託され、その子どもたちが大人になり、さらに次の世代を育んでいく。

この「支援の循環」が杉並に根付き、希望に満ち溢れた未来へとつながるよう、一人でも多くの皆様のご支援をお願いいたします。

区主催のイベントや次世代育成基金活用事業の報告会などで募金活動を行っています。杉並区次世代育成基金の詳細については、杉並区ホームページ（下記2次元バーコード）をご確認ください。



子どもたちの夢を応援する
杉並区次世代育成基金へのご寄附をお願いします。



【お問い合わせ】

杉並区児童青少年課 TEL:03-3393-4760 mail:jisedai-ikusei@city.suginami.lg.jp